本づくり応援マガジン

ゆるり

昭和堂・ゆるりで
出版された本のご紹介

vol.35

村永有留生作品集より　no title（22.8×16.0cm）　1995

男性作家特集

「男という名の惑星」

● 五島巡礼歩き旅　小川利昭
● 長与の地名 340の小字　久原巻二
● 時空をわたる櫻風　村永有留生作品集
● 歌集 時は流れ往けど　天瀬裕康
● 私の回顧録　川原四志和
● グッドなホームの家づくり50年回想録　岡修一
● 木原正髙画集　木原正髙
● 今福正喜と山本ヤエの生涯 南串山に生まれて　竹下菊雄
● 地方創生の成功法則　菊森淳文
● 米寿記念 寺嶋邑浦書作展

株式会社 昭和堂　「ゆるり」は長崎県内の主なコミュニティ施設に無料で配布しています。
自費出版サロンゆるり　TEL:095-828-1790

五島巡礼歩き旅

五島列島
53教会堂
20日間の
一人旅体験記
（ガイドマップ付き）

小川利昭 著

●判型:A5判　●頁数:144頁
●定価:1,200+税

私は歩くことが好きで、地元・諫早市周辺の「諫江（かんこう）八十八ケ所霊場」巡りから始めた一人歩きは、九州内の霊場巡りへと及んだ。

次いで念願の四国八十八ケ所霊場遍路へ、満願成就し高野山奥の院へもお礼に行った。四国遍路では、台湾、カナダ、オーストラリア、フランス、ドイツ人など外国人も歩いていた。案内標識には韓国の人が設置したというものも加わっていた。それぞれ国、宗教が違っていても１０００年の歴史があるといわれる四国八十八ケ所遍路への関心は高いようだ。

次の歩きについて考えた。長崎県下には多くのカトリックの教会堂が五島列島を中心に点在している。当時、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」を世界遺産に登録しようとしている中、次は県内の教会巡礼をしようと決める。（現在は、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として世界遺産に登録された。）

早速、長崎市に在る「ＮＰＯ法人長崎巡礼センター」に出向き教会堂やキリスト教関連史跡等「巡礼地」の資料をいただき計画を立てる。

一番気になるのはキリスト教の信者でない私が教会堂で拝観するだけでなく教会巡礼としてどのように対応（お祈り）したらよいのか、よくわからなかった。そこで再度、巡礼センターに出向き、「教会堂巡礼のしかたに記載されているように、何を祈ってもかまいません、目を閉じてから、目を開けて何かを感じることです。堂内の写真撮影はだめです。外に出たら振り返り何かを感じてください」など助言を受ける。「無理をしないで」と言われる。

霊場遍路では具体的に目に見える行動でなされ教会堂巡礼では心の中でなされる静かな行動であると思った。誰もが参加できるのは同じである。

これらを踏まえ、先年長崎の教会堂（壱岐、対馬は除き天草地方は加える）など巡礼地を歩いてすべてつないだ。その数は、巡礼地３０１カ所、寄り道40カ所、所要日数48泊72日、範囲は狭いけれど歩行距離は、約１，６００㎞（長崎から大阪、東京等主要都市を直線で結んだら青森に至る）におよんだ。

教会堂の多くは島の浦々や

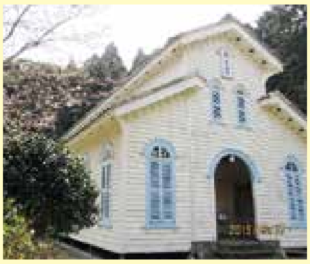
五島巡礼証明書

スタンプ帳

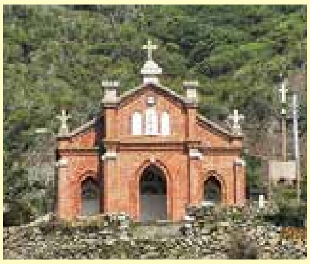
朝日上る（大宝）

世界遺産 長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産

旧五輪教会堂（久賀島）


江上教会堂（奈留島）

頭ヶ島教会堂（中通島）


野首教会堂（野崎島）

山の中腹に建っている。江戸時代後期に大村藩から移住してきた潜伏キリシタンが山間僻地や入り江の奥に居付き苦労して開拓、その地に禁教が解けた明治6年（1873年）以降、祈りの場として、教会堂が建てられた。すでに一代目は老朽化し二代目に建て替えられたところもある。さらに三代目もある。

教会堂はそれぞれ歴史があり建物の形や大きさも内部の構造も違っていたが正面に祭壇、左右の壁に7枚の絵が掲げられているのはどこも同じだった。また朝日、夕日が窓のステンドグラスを透して静かな堂内に写された場面は幻想的だった。

各ビーチや岬、海岸など風光明媚な景色を見、椿のトンネル、蕾であった桜も歩くごとに満開になり、早期栽培の田植前の水田では蛙がそこかしこから鳴く声を聞き、森の奥から人の呻くような不気味な声を聞く。秋には道端の木に下がる「グベ」をいただき春には山グミをいただき子供の頃を思い出す等自然にふれながら、信仰を貫いてきた人たちを思いながら歩いてめぐるのも意義がある。歩いてしか見られないものもある。

荒天で海が時化、船が欠航し動けず日程を延期したり強風で行く手を妨げられたりと、島の厳しさも実感する。

五島巡礼へ都合4回行った。

1回目は秋に、2回目も秋に（長崎国体の応援日を挟んで）2回に分けて行き、3回目はこれまでとは逆に小値賀島から福江島に初春に下り、4回目は「五島椿祭り」期間の最終週に訪問、所要日数は概ね17泊18日、歩行距離約415km、（玉之浦から小値賀まで島の中心を結んだ直線距離は90km弱）、55巡礼地、寄り道30カ所だった。

本書は、この4回の五島巡礼をもとにまとめてみましたので歩き旅に興味のある方は参考にしていただければ幸いです。

※本書の一例

堂崎から岐宿

2日目のルート図（堂崎から岐宿）

2日目

平成28年2月23日(火)

巡礼3カ所（1教会：20分）

寄り道3カ所

歩行距離 約28.0km

宿～(0.4km)～バス停 →（バス、7.8km）→ 堂崎天主堂入口～(2.1km)～⑤宮原教会堂～(1.3km)～岩屋観音～(2.8km)～⑥半泊教会堂～(9.4km)～ドンドン淵～(6.1km)～⑦楠原教会堂～(0.3km)～楠原牢屋跡～(4.5km)～魚津ヶ崎公園・遣唐使船寄港地の碑～(1.1km)～宿（岐宿町）

雨模様なので雨具を着て宿を 6:55 出て、「新栄町バス停」 7:10 発「観音平行き」のバスに乗る。（土、日曜日は運休）、「堂崎天主堂入口バス停」下車、 7:35 歩き始める。

戸岐湾入り口に架かる戸岐大橋を右からの強風を受けながら渡る。その先は田ノ浦瀬戸そして久賀島、白い浜脇教会堂が小さく見える。下って戸岐小学校跡を右に見て、左手、木立の間から戸岐湾を見る。「宮原公民館前バス停」から右折、小さな橋を渡るとすぐ⑤宮原教会堂（五島市戸岐町）に 8:15 着く、昭和46年（1971年）改築、木造平屋建ての小さな教会堂、水平天井、後ろの椅子に座り一時を過ごす、静かだ。庭先に桜の大樹、八重桜で満開時はきれいだと以前近くの老婆が話す。県道へ戻り右折、湾を見ながら進む。

宮原教会堂

しばらくして分岐、右手間伏、半泊方面へ進むとすぐ右手に岩屋観音の説明板が立つ、

岩屋の観音像

020　021

野首教会堂

大曽教会堂

38年間、長崎県下の公立学校で地理や日本史を担当した著者が、定年後FMラジオ出演をきっかけに、深く「長与の地名」を探ることとなりました。地名の最少単位である長与の小字340をすべて調査し、専門の地理学を駆使した独自の見解で地名の由来を解明しました。地名のもつ面白さと深さを実感できる好著です。

はじめに

自分の住んでいる町を誇りに思うことができる、ありがたいことです。

長与のよさと特色、地名のおもしろさと奥深さを知っていただきたいとの願いからまとめた本書です。

長与をくまなく歩き調べ、地名、特に小字に焦点を当てて著しました。

私なりのこだわり

◆調査は楽しい

私は高校生のころから考古学をやっていました。歩き回って調べ、新しい遺跡を見つける、石器を採集するなど目的のものを探し出すことが大好きでした。日ごろ散歩していてもただ歩くのではなく、ちょっとした地形の傾斜や段差、工事現場、崖に見える地層などが気になって仕方がありません。

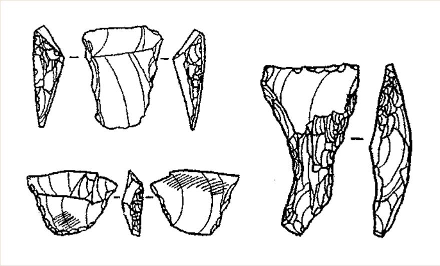
地名を調べることになって楽しい毎日が続きました。今日はここに、明日は・・・と天候を心配しながら町内を歩き回りました。新しい知見、明日への期待と充実した日々でした。ともかく実地に歩き、実感を持った記載をしたいと強く思いました。

執筆のきっかけ

4年ほど前、FMラジオの番組企画で、「長与町紹介コーナー」の担当を打診されました。定年退職して間もなく、長与町内を調べ歩いていました。当時は地形、中でも長与川に関心がありました。退職して時間的にゆとりができたからか、見えるものがかつてと違い、小さな地形や地層に新しい気づき、おもしろさを覚え、極めて意欲的に歩いていました。

ただ、ラジオで地形を語るのは難しいので、考えた末、「小字地名」をテーマとしました。地名を深く調査研究したことがなかったのでやや苦労しましたが、小字の分類、分布や由来などを内容としました。

放送は1年弱で終えたものの、不十分なままで担当したことが悔やまれ、以降地名を徹底して調べてみようと決意しました。何より地名のおもしろさ、奥深さに惹かれたからでもあります。歩く調べる目的が、地形から地名に変わりました。



台形石器・台形様石器
堂崎遺跡出土の旧石器

第三紀層（平木場郷）

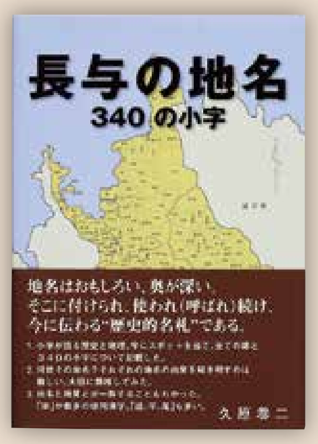
長与川と長与町役場周辺（嬉里郷）

なぜ地名、小字か

◆地名の意義

地名には、その地の自然と歴史が凝縮しています。地形や田畑などその地の自然環境や開発などの特色から付けられました。歴史が古く、住民の関わりが多ければ多いほど地名は細かくなります。その地を適切に表さなくなったらその地名は使われなくなり、新しい地名がつけられます。

今ある地名は使われ続けたから残っており、その地の貴重



●判型:B5判　●頁数:114頁
●定価:1,200円＋税

【本書の主な内容】

長与を、主に地理的な視点から記載した地誌書ということができます。長与町の全体的な特色、郷（大字）ごとの特色とその小字について記述しています。地形や土地利用、地物、歴史などを説明し、やや大胆に地名の由来も考察してみました。

主な項目は、

・地名とは　地名の意義、小字の特色
・長与町の地理・歴史概観
・長与の九つの郷（大字）と340の小字の特色
・小字の分析（主な小字と分布）

な文化遺産でもあります。

◆小字は最小単位

小字は細かな範囲の田畑のまとまりや地形などにつけられました。長与町内には340、長崎県内には4万を超す小字があります。ほぼ全国共通に付けられた公的地名の最小単位でもあります。

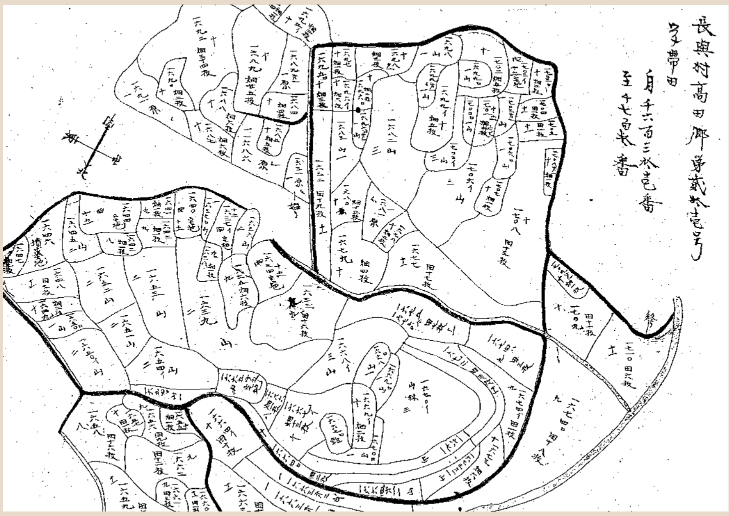
◆細かに反映

最小単位であることは、その土地のことを細かく、あるいは生活に密着してつけられた地名であると言えます。最もその地に結びつきが強く、その地の特色を絶妙に反映しているのが小字です。

◆忘れられつつある小字

その小字（字）が現在の生活には必ずしも必要とされていません。今、自分が住んでいる所の小字が何か知らない人が多いのではないでしょうか。新しい地名表示（～丁目など）がされたり、団地が造成されたりして小字が無くなっている例もあります。

長与町内もその一つです。


小字「帯田」（旧地籍図）

まなび野

北陽台

本づくり

自費出版サロンゆるりに担当していただいて、本づくりも一層楽しいものになりました。自分のことばで書く、地図、写真や統計も自分で用意する。当然拙いものばかりですが仕上げた感を味わうことができました。

これを機に、地理や地名だけでなくもっと長与のよさを、地域の特色を紹介できるようなことにも挑戦していきたいと思っています。

学びを創る、学び加えが目標です。

この地名読めますか？

小字

氷取、日当ノ尾、坪迫、蛙石、姥懐、鉈落、川原、三月岩、本堂、皆前

日当野尾バス停

蛙石

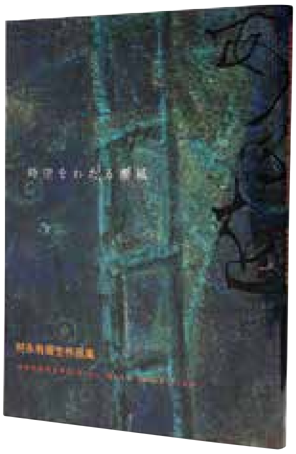
皆前

答えは、この本の中で!!
地名の由来をすべて解説

時空をわたる櫻風

村永有留生作品集

例年ならば春爛漫の桜花の頃、千葉県の佐倉市立美術館で村永有留生展「時空をわたる櫻風」が開催されました。今年の桜は足早で会期にはすっかり葉桜になっていましたが、会場では櫻シリーズをはじめ多くの作品が来場者の目を楽しませていました。この回顧展を記念して作品集が発刊されました。



●判型／Ａ４変型　●頁数／１３２頁
●製本／無線綴カバー付・折込み
●定価／本体２５００円＋税

村永有留生さんは鹿児島生まれ。日本画家村永定観の長男として生まれ、東京の美術大学では加山又造に師事、卒業後は千葉県の高校で美術教師の傍ら創作を続けました。その後、教職を辞し、五十歳の時に大好きだった長崎に夫妻で移り住みました。それは「ひとつには絵の中に出てくる南蠻人たちに長崎の空気を吸わせたかったのでしょう」（妻の洋子さん談）。

有留生さんは移住前から長崎をモチーフにした作品を描いていました。さまざまな文化に彩られ混沌とした雰囲気を醸し出す長崎の風土が、縦横無尽に疾走する画家のイマジネーションを加速させたのでしょう。諏訪神社の裏手の斜面にアトリエを構え、画業に専念しながら長崎での生活を楽しんでいました。当初日展に所属したものの生涯無所属、自由な創作環境の中で膨大な作品が生み出されました。

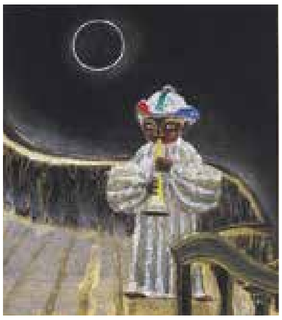
田中俊廣さん（詩人・活水女子大学教授）の寄稿文の一節に、次のような作品評があります。

「神秘的で宇宙的で躍動的な時空の中に、確固とした現実の根底が横たわっている。明暗の深度のスケールの幅。色彩の奥行き。モチーフの多彩さ。日本画のマチエールを軸にしながら、洋画の発想を導入したユニークな画像。これらを総括、凝縮することによって、村永有留生の比類ないスタイルを構築している。」

本書には一二〇点ほどの作品が紹介されていますが、どれも溢れる詩情と確かな画力に圧倒されます。

昨年末に発刊された、日本画家石踊紘一さんと一緒に旅したインドの印象を描いた『印度ラージャスタン紀行』も珠玉の小画集です。このインド旅行は画家にとってエポックとなる体験の連続でした。しかし帰国後、有留生さんは体調を崩し、平成二十四年、六十五歳で帰らぬ人となりました。

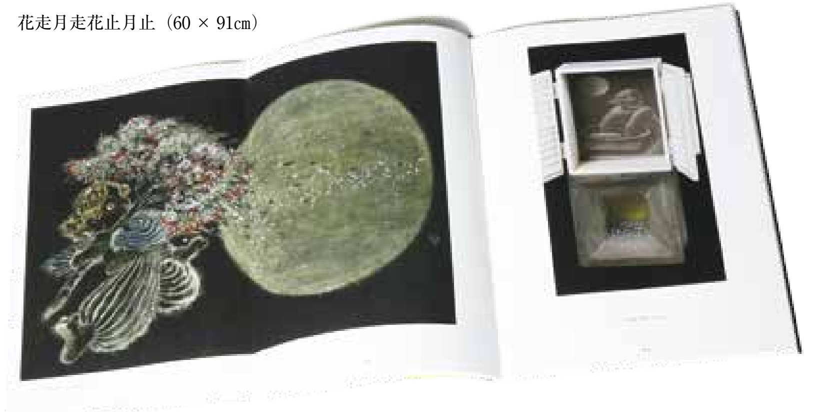
月を盗む（１００×６０㎝・２隻）



夜想曲（２７×２４㎝）

ゆめうつつ（３０×２５㎝）

イスラム国夜景（２５×４１㎝）



花走月走花止月止（60 × 91㎝）

●判型／Ｂ６判　●頁数／60頁
●製本／中綴
●定価／本体１０００円＋税

あすなろ叢書　第90編

歌集　時は流れ往けど

天瀬　裕康

■ 判型：127×188㎜
■ 頁数：256頁
■ 製本：糸綴じ製本
■ 定価：2,160円（税込）

■ 著者略歴
天瀬裕康（あませ　ひろやす）
本名：渡辺　晋（わたなべ　すすむ）

昭和6年
・広島県呉市に生まれる
・岡山大学大学院医学研究科卒（医学博士）
・本名では核戦争防止国際医師会議日本支部理事
・『半世紀後の反核戦争』（1998年、㈲創元社）など
昭和63年より筆名の天瀬裕康を常用
・『異臭の六日間』（2016年、近代文藝社）ほか著書多数
平成24年
・あすなろ入会
現在
・日本文藝家協会、日本SF作家クラブ、日本ペンクラブ、西広島ペンクラブ、漢詩「楓雅之朋の会」各会員、短詩型SFの会代表

被爆六十年
敵機去り警報解除されしあと
突如出現　皮膚はげた世界

あの時刻（とき）を思い出すたび拒否
反応われ十四歳3号被爆者

熊本誦詠
山麓は優しかりしが火口では
地球内部がちらつく阿蘇山

啓蟄やけものも里を走りけり
魑魅魍魎も動きそむるか

アサギマダラ
大分の姫島に海越え來たる浅
黄斑よ宇宙蝶らし

嫋やかにアサギマダラの長き
旅　野越え海越え銀河の果に

プルトニウム
ヒロシマはウラン爆弾ナガサ
キはプルトニウム弾いずれも
悪魔

冥府の王ひそみし闇にうごめく
やプルトニウムは消失おそし

流れ星いくにんの友過ぎ逝き
し夜間飛行の灯も渡る空

心と行事
迷い去らず其れも可なりや娑
婆なれば解脱なきまま此の世
から去る

坐禅組み世界は白く消え行け
ど黒点一つ残りて去らず

古生物
子供らはみな恐竜が好きと云
うイグアノドンと名前憶えて

生きた化石・山椒魚の棲む渓流、
地質時代の過去へ行きたし

福島原発事故
あの社こそ被害者ならず加害者
ぞ裁判をして重罪を課すべし

美術とは
モンドリアン最初の抽象画家な
らん生まれは何処（いずこ）遠き星かも

身辺要録
小雪舞う隅にひっそり青い花
手折り帰りて妻に手渡す

核戦争防止へ
被爆医の証言無用と云う者あ
り彼らこそ知れ被爆死の惨

在りし日の夢かうつつか星のか
なた少女が浮かび少年を招く

諸世紀
猿人の古き時代にさかのぼり武
器なき世とする術なきものか

これは最早いくさにあらず皆
殺し八月六日八月九日

コンピュータに支配されゆくこ
の星に人の未来は僅（わず）かの如し

天馬往く地球駆け抜け寒月に
馬の首星雲へと飛翔続けり

戦後七十年
ユネスコに南京虐殺は不当ゆ
え拠出金止めと政府力みぬ

天の語り
土星かも衛星の一つエンケラ
ドス水に覆われ棲む希望わく

熊本地震
火の国の活断層を震源に二度
の激震はじめての観測

星新一
うそ寒や青山霊園なかほどへ
星新一の墓所に詣づ

遠近偶成
命ひとつ己も他者も死ぬなか
れ多発テロ無用ノーモア自爆

放送を始めてすでに五十年ウ
ルトラマンは少年の夢

戦争反対
私家版で「反核戦争」上梓せ
り医師の立場の結論なりき

流れ往く時の一瞬　この今や
戦争止めよ　孫らのために

私の回顧録

川原四志和 著

私が今日まで生かされてきた背景には両親、先祖から無償の愛を頂き、特に陰の功労者である妻のおかげでもあります。そして親孝行してくれる家族の存在があります。数多くの人様に支えられ、感謝の日々を過ごしております。これからも座右の銘である「感謝の気持ち」を忘れることなく日々精進したいと思います。

平成29年7月28日　創立40周年記念祝賀会
於　ハウステンボス

私は軍港の街として栄え、米軍人が行き交う佐世保で生まれ育ちました。

私の父は基地の近くで『軍港羊羹』という名の羊羹や饅頭を作り、菓子屋を営んでおりました。私は男ばかり四人兄弟の末子として生を受けました。父は幼いころから私たち兄弟に「商売人になれ!」と口癖のように言っておりました。

学生時代に白黒テレビから流れてきたのは、力道山が活躍するプロレス中継でした。当時『三菱ダイアモンドアワー』の時間にプロレス中継が放映され、番組のイントロで銀座三愛ビル屋上のネオン広告塔が流れていました。何回もそれを見ている内に、私は東京へ行ってみたいなあと思うようになっていました。

高校卒業を控えた頃、父がお世話になった方で菓子の製造と卸業を経営している方から、東京へ来ないかと誘って頂きました。東京へ行きたい一心で職業のことは何も考えず、卒業とともに上京しました。

二年ほど過ぎた頃でしたが、夜の銀座で見上げたネオンサインの点滅に魅了され、その仕組みを知りたくなりました。次男が看板業を営んでいることもあり、私はネオン看板の仕事をしようと決めました。普通の看板業より付加価値が高いとも思いました。それから早速都内Y社へ就職し広告業界へ入りました。昼は看板の仕事をしながら夜はデザイン学校で基礎を学ぶという生活が始まりました。

ネオンの仕事をしたいと思っていた私は次に業界で老舗のO社に就職できました。当時、福岡に九州出張所がありましたので、福岡での生活が始まりました。商業高校出身であった私は電気の知識が全くなく初歩からの勉強でした。昼間は仕事をしながら夜は専門誌を買って筆記・実務と猛勉強して、半年で電気工事士の資格を取りました。

昭和五十一年二十六歳で結婚し、半年後に独立致しました。ささやかな夢を持っての出発でしたが、当時は第一次オイルショックの影響で早めのネオンサインの消灯が推進されていた時代でした。今思えば大変な時に独立したものだなあと思います。食うや食わずの時代があったからこそ今の自分たち夫婦があり、会社があるのだと実感しています。

父に教えられたことの中に「有り難いという字は困難があるから有り難いと書く。苦しいから人の苦しみ・悩みを理解することが出来る」というのがありますが、その当時の境遇に感謝の念を持つことが出来ました。（日本サイン協会　会報ネオス　平成二十三年）抜粋。

平成元年に本社工場を市内指方町へ新築移転してから、早くも昨年7月には創業四十周年を迎えることができました。

佐世保東モラロジー代表世話人の頃、
廣池幹堂理事長（左）と千葉の学園にて
平成2年

平成元年3月落成式

高校卒業　東京へ就職する前に
佐世保の動植物園にて　両親と甥

カワハラネオン広告　新工場　平成元年3月竣工

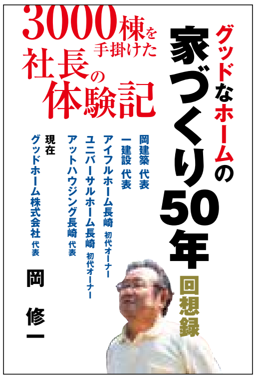
●判型:A5判 ●頁数:146頁
●非売品

【経歴】
昭和五十二年より
㈱カワハラネオン広告代表取締役
平成二十一年より
長崎県屋外広告美術協同組合理事長
平成二十四年より
（公社）全日本ネオン協会九州支部長

グッドなホームの家づくり50年 回想録

岡 修一 著

注文住宅を手がけるグッドホーム（長崎市）の岡修一社長が、これまでの人生の様々な体験を回想録として出版しました。紆余曲折の中で、約3千棟の家づくりを手掛けた半世紀を振り返ります。



●判型:四六判
●頁数:260頁
●定価:1,500円+税

長崎市三原町に構えていた本社社屋の売却が決まり、現在の長崎市岡町に「グッドホーム株式会社」の拠点を移したのは平成23年のことです。そのとき私は40年近い経営者人生の中で、最も過酷な局面に立たされていました。最大のピンチを前にして眠れない日々が続き、資金繰りも私自身の忍耐もそろそろ限界かというところまで追いつめられていたのです。その後幸運にも現在の業績にまで至るのですが、もしもこの時すべてを諦めてしまっていたら…。

最初に建てた次兄の家（写真は現在）

　そもそも私が経営者の道に進んだきっかけは、中学校を卒業した昭和42年にさかのぼります。私は生まれ育った佐世保市黒島町を離れ、長崎市内の工務店で大工の弟子になりました。4年間、棟梁の家で住み込み生活を送りながら地道に修業を続け、二十一歳の時に独立。「岡建築」の社名を掲げて、手始めに兄弟や親戚の家を造りながら腕を磨きました。独立した当初は仲間と協力して、「ハウスキーパー」という名称でリフォーム専門のビジネスを展開したこともありました。その頃から常に大事にしていた信念は「喜んでもらえる家づくり」というお客様への思いでした。若い頃は技術を高めることでその思いを形にしていました。

1988（昭和63）年8月6日　36歳

　同じ大工でも仕事の仕方や歩む方向はそれぞれですが、私は技術面だけではなくその後経営面においても興味を持って取り組みました。転機となったのは昭和63年、「アイフルホーム」のフランチャイズに加盟し会社を法人化した頃です。この頃から社長の立場で、経営に専念するようになりましたが、上り調子の売り上げと反比例するように四年目で最初の挫折を経験しました。経営について知識が乏しかったために、最初の大赤字を出してしまったのです。そこからは心を入れ替えて経営の猛勉強をしました。優秀な経営者であるフランチャイズ仲間の支えにも助けられ、業績はV字回復。アイフルホームから「ユニバーサルホーム」に移籍以降は最高年商28億円を超え、店舗数は最大16店舗、社員数は一〇〇人を超えた時代もありました。まさかそれから十年後に倒産の危機が訪れようとは夢にも思っていませんでした。

　私の人生は山あり谷あり、頂上が見えたと思った途端、あっという間に急坂をくだり始め、そしてまた浮上する。たとえるならジェットコースターのようなものですが、ただ私はどんな経験をしても笑顔でいたいと思っていました。できれば周りにいるすべての人にも笑顔でいて欲しいのです。大らかな時間が流れていた子どもの頃の黒島での暮らし、厳しい大工の修業時代、そして経営者となり苦楽を味わう中で、いつしか私の心には、人を恨まず、思いやる態度で向き合う気持ちが少しずつ芽生えていきました。

アイフルホーム時代

　そのことは、経営者として、また何より人間として正直に生きるという美学、美徳にもつながるものと思っています。

　六十代半ばを過ぎ、家づくりの道を歩んで五十年を迎えた今、私はまだまだ現役の経営者として長く会社を存続させ、良い形で次の世代にバトンを渡したいと奮闘しています。しかし、年齢的に言えばそう遠くない未来に「引退」の二文字が見えていることも事実ですから、このあたりで少しだけ、いままでの経験を振り返ってみようかと思いました。

　これからお話しする私のささやかな思い出話が、現在、仕事や人生で苦境に立たされている方々にとって一筋の希望を見出すきっかけとなれば幸いです。またお客様にはこれまでの私の家づくりへの思いが伝われば嬉しい限りです。（序文より）

お問い合わせ先／グッドホーム TEL095-847-7420

毛越寺　冬の浄土庭園(1)／F8号　2012年

山の音楽会、平家荘／F1号　2015年

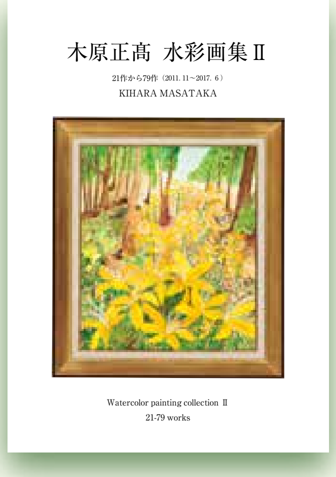
山芍薬　白鳥山／F10号　2015年

富貴寺（国宝）　国東半島／F6号　2016年

紫陽花／
F10号　2012年

ラジオ文芸館／
F10号　2013年

えびね蘭　岩屋山／
F8号　2017年



木原正髙 水彩画集Ⅱ

21作から79作（2011.11~2017.6）

- サイズ:A4
- 頁数:40頁
- 製本:無線綴じ
- 非売品

水彩画を始めて9年目になろうとしています。ここまで続けられたのは、荒木恵子先生が主催されている水彩画グループ「ブルーパレット」に所属し、十善会グループの月1回の集まりに参加しているからにほかなりません。先生、グループの皆さんに深謝します。

個展を見に来ていただいた方に、どうでしょうかとお聞きすると、皆さんの好みが千差万別であったことに感動しました。個個人には個性があるのはよくわかっていましたが今回個展を開いて、個性や個人の独立性をもっともっと尊重する社会であるべきだとあらためて感じました。

絵を描くのは基本的には楽しいのですが、うまくいかずに進まない時もあります・・・もう少し、絵を続けましょう。

＜略歴＞　木原　正髙

昭和23年11月	長崎市生まれ　69歳 長崎大学医学部大学院卒業 内科医 水彩画歴9年 荒木恵子先生主催水彩画グループ「ブルーパレット」所属 上野の森美術展、東光会、長崎市民美術展、毎年入選
平成23年12月	水彩画集Ⅰ（20作）を作成
平成25年12月	第1回水彩画個展を「メガネのコクラヤ」ギャラリーで開催
平成29年 8月	第2回水彩画個展を「メガネのコクラヤ」ギャラリーで開催
平成29年12月	水彩画集Ⅱ（59作）を作成

今福正喜と山本ヤエの生涯

南串山に生まれて

竹下 菊雄 著

●判型:A5判 ●頁数:178頁
●非売品
●製本:無線綴じカバー付

私の郷里・南串山には、これまですぐれた人物が輩出している。『みなみくしやま―南串山町郷土誌』（馬場賀臣編）には多くの人々の名前が掲載されている。また、現在活躍中の立派な人もたくさんおられる。

人は中年ともなれば、自分のルーツを振り返って思うようになるのではなかろうか。人生の先が少しずつ見えてくると、自分はどこから来たのだろうか、DNAはどう連なっているのだろうかと思いをめぐらすのは当然である。

そのような中で、南串山に生まれて早世した二人の秀才、今福正喜と山本ヤエの記録を残しておこうと私が思い立ったのは、三十年以上も前だった。この二人の名前を知る人は今では郷里にもほとんどいない。

今福 正喜
東京帝大医学部卒業時

今福正喜 初瀬 大正九年八月

■今福正喜 略歴

明治二十四(一八九一)年生まれ。県下の英才が集まる長崎県立長崎中学校に入学し通常の五年間を四年で卒業。明治四十年、九州一円から秀才が集まった熊本第五高等学校に進学。その後、東京帝国大学医学部入学。

地元へ帰省中は東大生であると威張った風は全くなく、人柄も上品で、立居振舞いには何か神々しさが感ぜられたと言われる。大正四年卒業し、外科医となる。二年後に母ミツの開腹手術を口之津の阿地部病院の手術室を借りて執刀。「この時、多くの医師が見学し、日本の最高の医術に、ただ驚愕するばかりであったといわれている」(郷土誌『みなみくしやま』)

大正八年、支那保定府医学専門学校(北京)の教授として赴任。同十年より北京日華同仁病院勤務(修学費の返済と病院開設準備のため)。しかし結核に感染し、帰国。病床に臥し、大正十五年四月、三十五歳で生涯を終える。

■山本ヤエ 略歴

大正八(一九一九)年、大連で生まれる。七歳の時に家族で引き揚げ、昭和六年に南串山第二小学校を一番で卒業し、松平賞を頂く。口加女子校を首席で、昭和十二年長崎女子師範校もまた首席で卒業し、南串山第一小学校に奉職。

その頃、地元の和歌同好会「珊瑚樹社」(楽常寺住職立花慈恩主宰)に参加。この会の中心的な人物の一人となった。会誌「珊瑚樹」は、昭和十六年まで四十三号を発刊。昭和十三年、長崎女子師範専攻科(国文学)就学。昭和十四年(二十歳)卒業論文『現代和歌史概説』発表。

昭和十七年、姉マサの後任として、京都七條第二小学校へ奉職。同十九年、長岡の国民学校へ教生指導教師として転勤。昭和二十年九月チフス発病し、十月、二十六歳の若さで生涯を終える。

山本ヤエ(左下) 大正九年大連

今福正喜が長命であったならば、おそらく板引で外科医院を開いて、南串山の人々のために大変貢献したであろうし、山本ヤエは、南串山出身の有名な女流歌人となったであろう。

今の時代なら、この二人は病死することはない。残念なことである。

この記録は、二人の小さな伝記であるが、それにしては少し詳しすぎたり、蛇足もあるかも知れない。しかし、一・二ページの小伝では味も素っ気もなく、その人物像を伝えることは難しい。小さい事柄を述べることで全体がより鮮明になることもある。「神は細部に宿る」とも言われる。

南串山には、まだまだ隠れた有徳の人が沢山おられる。そういう人達を、このような形で顕彰するのも、歴史の一つの表現形式として意義があるのではないか。

現代和歌史概説 直筆

山本ヤエ 二十歳頃

〈略歴〉竹下 菊雄
昭和14年 南串山京泊生れ。
昭和38年 長崎大学医学部卒業
昭和50年 諫早市にて内科医院開業 現在に至る。
たけした内科小児科医院

地方創生の成功法則
—地域振興における効果的な人口・観光・物産振興政策のあり方

菊森 淳文 著

一 書籍を発刊した動機

私が今年初め、七冊目の単著「地方創生の成功法則—地域振興における効果的な人口・観光・物産振興政策のあり方」を上梓させていただいたきっかけは、本書の原型となった博士論文の指導教官であった、杉原敏夫教授（長崎総合科学大学大学院工学研究科、元長崎大学経済学部長）から示唆をいただいたことでした。博士論文自体、私が長崎県に招聘をいただいて来てからの十五年間（二〇〇二年～二〇一七年）で得た地域経営の事例と知見を普遍化したもので、「地域経営の教科書」とも言える集大成でした。長崎総合科学大学の立石暁理事長（元長崎県副知事）からも、全国の自治体経営の教科書になると励ましていただき、発刊に向けて意を強くしました。

二 書籍の概要

地域経済を豊かにする政策の選択と、選択した政策を実行する地域経営力のレベルによって、地域の将来が大きく変わることは、私が長崎県の政策や市町の政策・施策とその実行力・成果を観察して経験的に感じることがありました。この間、公益財団法人ながさき地域政策研究所で、地域経済に関する経済統計や地域経営の全分野にわたる事例を研究・支援してきて、政策選択と、戦略的地域経営が、地域の将来を決める両輪であるとの確信を得ました。政策選択の在り方については、地域経済への影響が大きく、住民の関心が高い、人口減少対策・観光振興政策・物産振興政策の三つを取り上げ、マクロデータを用いて、地域総生産とこれら三つの政策の関係、三つの政策相互の関係性を検討しました。人口減少対策は、地域政策としてあまり取り上げられて来なかったテーマですが、マクロ経済にとって、最も大きな影響を及ぼす根幹であるので、自然増減・社会増減ともに分析しています。地域経営については、「戦略的地域経営」を実現するために、政策評価制度やNPM（New Public management）と並んで、行政経営を戦略的に行い、より総合的に評価するために、四つの視点（顧客・財務・業務プロセス・学習と成長）に基づく、バランス・スコア・カード（Balance Score Card）の活用も検討しました。

本書の内容は、一見専門的で、難しそうに見えますが、民主主義制度下での、住民に開かれた行政運営の在り方として最重要なテーマです。また、地方財政が今後厳しくなる中で、地域経済にとって効果的な政策を優先的（戦略的）に実行しなければならず、政策を成功させるための具体的な方策についても、多くの方々に関心を持っていただきたいと思います。

三 今後への抱負

本書は、博士論文の書籍化を優先したので、表現が硬く、難しい論点もありましたが、今後は、地方創生・戦略的地域経営・離島振興・世界遺産・インバウンド観光等を具体的に、分かりやすく読者と一緒に考えるための書籍を発刊していきたいと思います。

●判型:A5判
●頁数:154頁
●製本:無線綴カバー付
●定価:本体1,500円+税
問い合せ先:ながさき地域政策研究所
電話:095-820-4865

2018.4.20長崎市から「長崎観光ビジネスプランコンテスト」が「長崎創生プロジェクト事業」の認定を授与。地方創生には、民間からの創造的事業が求められる。

2018.4.26長崎県・佐世保市IR協議会有識者委員会最終報告。中村知事・朝長佐世保市長と。

著者略歴
菊森 淳文（きくもり・あつふみ）
一九五五年 三重県生まれ
一九七八年 東京大学法学部卒業、三井銀行（現三井住友銀行）入行
一九八三年 米国シカゴ大学経営大学院卒業（MBA）
二〇〇一年 日本総合研究所調査部主席研究員
二〇一三年 ながさき地域政策研究所研究所長
二〇一七年 ながさき地域政策研究所理事長、現在に至る
著書に
「こうすれば地域再生できる」（長崎新聞社、単著）、二〇〇七年
「長崎県近代化遺産巡り・夢の遺産」（長崎新聞社、共著）、二〇一三年
他多数

新刊ご紹介

2018年6月現在（税込額）

歌集 冬牡丹
松﨑 伸子
●非売品

精霊流しについて
平成29年伊良林一丁目自治会 精霊流しの記録
土肥原 弘久
●1、080円

かけがえのない日々 第三章
エッセイ集
田添 京子
●非売品

しほとふしぎなみずうみ
童話集
堀田 征子
●非売品

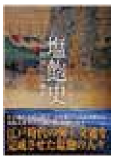
真実一路
原正好画集
古賀セイ子編集
●非売品

生きた、愛した、そして撮った
松尾弘遺作写真集 編集委員会
●非売品

販売本コーナー

ここでご紹介する出版本は、
サロンゆるりまでお気軽にお問い合わせください。

塩飽史
江戸時代の公儀船方
吉田 幸男
●2、700円



もう一人の少年使節ドラード
青山 敦夫
●1、200円

長崎 幻の響写真館
根本 千絵
※●2、160円

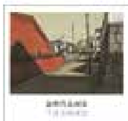
昭和20年8月長崎市地図
出口 輝夫
●540円

神様を擔ぐ男達
長崎くんち
土肥原 弘久
●1、080円
◆問合せ先 土肥原さんまで
電話〇九〇―二五〇〇―〇五九七

長崎を描いてさるく
松林 重宗
●2、160円

玉鈴 水墨画集
―墨色の千変万化に魅せられて―
田村 玉鈴
●4、860円

加野尚志画集 平成長崎風景
加野絵画研究室
●4、320円

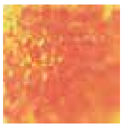


祈りと光の情景 五島の教会とそのルーツ
久保進 フォト歳時記Ⅳ
●3、240円（税込）
お問合せ先 電話〇九五九―七五―〇八八一 久保循環器内科

英文観光ガイド長崎ハンドブック
長崎通訳研究会
◆問合せ先 電話〇九五―八二二―五四八四
●600円

未来の長崎のリーダーたちへ
江戸しぐさの心を長崎に
宮﨑 牧子
●1、404円

キラキラ
人生を輝かせるたった5つの大切なこと
ごうまなみ
●1、620円

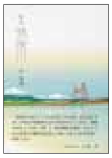


神様からの贈りもの
幸夏 涼
●1、296円

きくちゃんのうた Vol.2
ひらた きくよ
●1、620円

きくちゃんの詩
ひらた きくよ
●1、296円

歌集 筑後川
辻 武男
●2、160円



そこに光があるから
第1詩集
北川 暢子
※●1、080円

来者の群像
木村 哲也
◆問合せ先 編集室水平線
電話〇九五―八〇七―三九九九
●1、728円

本の内容はホームページでもご案内しています　自費出版サロンゆるり　検索

※はネット通販サイト「長崎社中」の昭和堂・ゆるり販売本コーナーでもご購入できます。

開催のごあんない

八十八点の代表作をご覧下さい。ご来場をお待ちしています。

米寿記念 寺嶋邑浦書作展

会期 平成30年8月21日(火)～26日(日) 10時～6時　会場 長崎県美術館　県民ギャラリーC室

主催 書道鶴友会　後援 書道香瓔会／長崎県／長崎市／長与町／長崎県美術協会／長崎市書作家協会
読売新聞西部本社／長崎新聞社

個展によせて

芸術の殿堂である長崎県美術館にて、蝉の声もそろそろ終りになりそうな八月二十一日（火）から二十六日（日）まで、「米寿記念寺嶋邑浦書作展」を開催いたします。

戦争中はすべて学徒生活でしたが、昭和二十七年三月に縁あって清水瓊軒先生の門を叩き、それ以来、吉岡芝行先生、中央では西谷卯木先生と、先生の没後は書道香瓔会会長（日展会員）榎倉香邨先生に師持し、今日に至っております。

来し方を振り返って、多くの自作を残しておりますが、その中の八十八点を展示し披露いたします。

勿論、大した作品ではありませんが、その中には色々の思い出があります。涙あり、笑あり又悔いも残りますが、日本の仮名の真の美しさを求めて精進して来た姿の表現であります。

大作には大作の、小品には小品の味と趣があります。どうか多数の方にご清鑑いただきまして、御鞭撻下さいますれば、今後の道が又開けて来るものと確信しております。多数の方のご来場をお待ちしております。

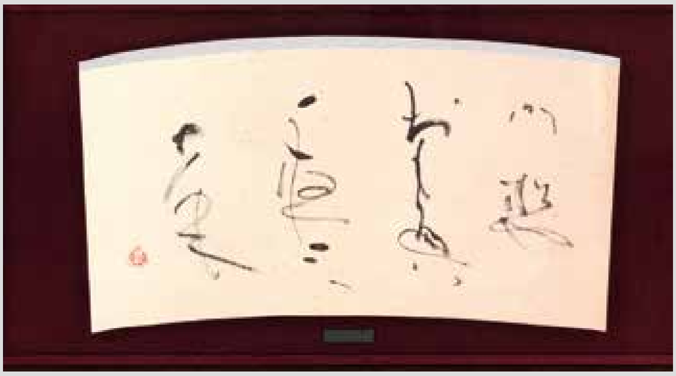
寺嶋邑浦 氏

■現在
- ○日展（入選六回）
- ○読売書法展・参与
- ○日本書芸院展・参与
- ○長崎県展・審査会員
- ○長崎県書展・名誉会員
- ○長崎県美術協会・名誉会員
- ○長崎市書作家協会・常任理事
- ○長崎書道会・名誉顧問
- ○書道香瓔会・参事
- ○鶴友会　主宰

帰去来　135×70×4

散る桜　134.2×29.5

秋の風　70×65



門松　32×64

もの忘れ外来のご案内

もの忘れ外来では、認知症に関する相談をお受けし、
専門的な検査、診断、治療などを行います。
「最近忘れっぽくなった」、
「繰り返し同じ事を尋ねるようになった」
などご心配なことがございましたら
お気軽にご相談ください。

完全予約制
診察ご希望の際は、必ずご予約下さい

新患診察日／担当医師　午後2時より、診察いたします。

予約／問い合せ窓口:道ノ尾病院 地域連携室
電話:095-856-1111(代)
(問い合せ時間:月～金 9:00～17:00)

医療法人 厚生会
道ノ尾病院
MICHINOO HOSPITAL
〒852-8055長崎市虹が丘町1番1号
URL:http://www.michinoo.or.jp

NBCラジオ あさかラ!『昭和堂笑顔のレシピ』

毎週金曜　あさ10:35より
放送中きいてネ!!
あなたの本や作品をラジオでご紹介します!!

あなたの想いを本にしませんか

『ゆるり』とは、囲炉裏の意味。囲炉裏を囲むように、
皆さんで集まっていただける空間に…との願いが込められています。
和の雰囲気を感じられる空間で、ゆっくりゆるりと、本づくり
談義に花を咲かせてみてはいかがですか。

自費出版サロン ゆるり
TEL.095-828-1790
FAX.095-823-8740

昭和堂ギャラリー
Showado Gallery KOFU
好風
TEL.821-1240
http://www.showado.co.jp

〒850-0875 長崎市栄町6-23 昭和堂ビル2F

貸ギャラリーお申し込み受付中
本づくりと展示会、まとめてできます!

情報誌「ゆるり」は
カタログポケット機能付き
カタログポケットとは?

- スマホ、タブレットで読める。
- 文字サイズを調整できる。
- 音声読み上げもできる。

※音声読み上げにはアプリのインストールが必要です。
PCブラウザは音声読み上げには対応しておりません。

スマホで読める「ゆるり」 デジタルブック配信開始!

上のQRコードより無料アプリ「Catalog Pocket」を
インストールし、「ゆるり」で検索!!

ゆるり【本づくり応援マガジン】2018年 夏 VOL.35
発行／株式会社 昭和堂　自費出版サロンゆるり　〒850-0875 長崎市栄町6-23 昭和堂ビル2F　TEL:095-828-1790　FAX:095-823-8740

笑顔で作るマイホーム
ニコニコ住宅®

『平屋の家』

『終活の家づくり』

- 子育てが終わり、定年退職を迎え、老後の生活を有意義に過ごされたい方。
- 二階建てや庭園など、住まいと敷地が老後の生活には広すぎる方。
- 長年の暮らしで、使わない品々に囲まれている方。
- マンションや老人ホームへ転居せず、今の場所で暮らしたい方。
- リフォームするには老朽化しすぎで、高額な新築費では老後資金に不安が残る方。
- 旅行や趣味、習い事などを優先した生活を送りたい方々。

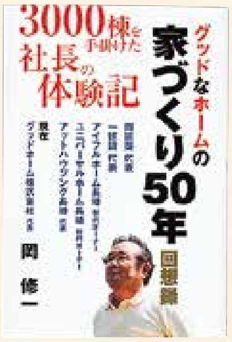
768万円～の家づくり

詳しくはニコニコ住宅までお電話ください！
ニコニコ住宅は『終活の家づくり』を応援します！

笑顔で作るマイホーム ニコニコ住宅®
株式会社グッドホーム　長崎市岡町2-22渕ビル2F　TEL.095-847-7420

◇人生は、七転び八起き!!

15歳で親元を離れ、大工の棟梁に弟子入り。20歳で独立し、岡建築代表、一建設代表、アイフルホーム長崎初代オーナー、ユニバーサルホーム長崎初代オーナー、アットハウジング長崎代表を経て、現在グッドホーム社長。紆余曲折の中で、約3千棟の家づくりを手がけた半世紀を振り返った回顧録。



出版記念！
先着10名様へ
「ゆるりをみた」で
プレゼントします。
グッドホームへ
095・847・7420

●判型:四六判　●頁数:260頁　●定価:1,500円＋税

本づくり応援マガジン

ゆるり

昭和堂・ゆるりで
出版された本のご紹介

vol.35

村永有留生作品集より　no title（22.8×16.0cm）　1995

男性作家特集

「男という名の惑星」

● 五島巡礼歩き旅　小川利昭
● 長与の地名 340の小字　久原巻二
● 時空をわたる櫻風　村永有留生作品集
● 歌集 時は流れ往けど　天瀬裕康
● 私の回顧録　川原四志和
● グッドなホームの家づくり50年回想録　岡修一
● 木原正髙画集　木原正髙
● 今福正喜と山本ヤエの生涯 南串山に生まれて　竹下菊雄
● 地方創生の成功法則　菊森淳文
● 米寿記念 寺嶋邑浦書作展

株式会社 昭和堂　「ゆるり」は長崎県内の主なコミュニティ施設に無料で配布しています。
自費出版サロンゆるり　TEL:095-828-1790